

 道ノ駅

日本一のもち米どころにある道ノ駅

特集

## 道ノ駅 もち米の里☆なよろ



猪 刈 嘉 之

### 1. はじめに

名寄市は、もち米生産量日本一を誇る文字通りのもち米の里です。また、雪 星 きらめき 緑の里が名寄市のキャッチフレーズです。道ノ駅の名称は一般公募の結果、同名の応募が複数あり満場一致で「もち米の里☆なよろ」に決定いたしました。

名 称：もち米の里☆なよろ  
 所 在 地：北海道名寄市風連町西町 334 番地 1  
 (国道 40 号沿い)  
 営業時間：9：00～18：00(4月～10月)  
 9：00～17：00(11月～3月)  
 休 館 日：1月1日  
 敷地面積：14,647m<sup>2</sup>  
 駐 車 場：大型 13 台、普通 64 台、身障者用 2 台  
 ト イ レ：男 9、女 8、多目的 1  
 主な施設：特産品販売コーナー、休憩スペース、  
 テイクアウトコーナー、レストラン、  
 農産物直売所、急速充電スペース等  
 指定管理者：(株)もち米の里ふうれん特産館

### 2. 基本構想の目的と背景

人々の価値観が「豊かさ」から「質・心の充足」に変化していく中で、それぞれ暮らし方も多様化しています。また、ゆとりと癒しを求めて都市生活者が地方との交流の場を求める場面も多くなっています。しかし一方ではコロナ過以降、ライフスタイルの変化といった全国的な動向に加えて、商圏人口の減少等により経済面での著しい落ち込みも大きな問題となっています。よって、国道 40 号線を利用するドライバーニーズに対応した「道ノ駅」を整備し、都市と地方、そして地元の人々の交流の場として新たな地域活性化の拠点とするものであります。

### 3. 名寄市の紹介

#### (1) 概要

平成 18 年に上川郡風連町と合併し、2024 年 11 月現在の人口は 24,798 人(13,739 戸)です。道北と道央、オホーツク海と日本海を結ぶ交通の要衝にある名寄市は旭川市より稚内市方面に車を走らせ 90 分程度のところに位置します。北に流れる天塩川の恵みを受けて育つもち米を中心とした農業が基幹産業です。主要の国道 40 号は稚内や利尻島・礼文島への観光路線であり、北海道縦貫自動車道が士別・剣淵インターチェンジまで開通したことにより札幌をはじめとする道央圏との時間が短縮され、観光・産業などの分野で経済的な効果ももたらされています。気候は、上川盆地にあるため内陸性気候で、四季を通しての気温差が大きく、夏は 30℃を超え冬はマイナス 30℃まで冷え込むこともあり太陽の光が、空気中の水蒸気が凍るダイヤモンドダストに反射してサンピラー(太陽柱)という現象が見られます。また、最近では低緯度オーロラが肉眼でも



写真-1 道ノ駅外観



写真-2 サンピラー

見られたと話題になっています。

## (2) 主な施設

名寄市の主な施設としては、名寄市立総合病院(上川北部地域保健医療圏の地域センター病院に指定)、名寄市立大学、なよろ健康の森、ピヤシリスキー場(ジャンプ台)、サンピラー交流館カーリングホール、なよろ市立天文台きたすばる、名寄北国博物館、名寄市民文化センター EN-RAY ホール、陸上自衛隊名寄駐屯地陸上自衛隊第二師団などが挙げられます。

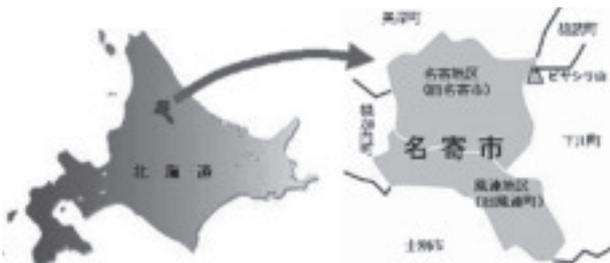


図-1 名寄市の位置



写真-3 ピヤシリスキー場ジャンプ台



写真-4 天文台きたすばる

## (3) もち米・もちについて

もち米の生産量は北海道が一番多く、中でも上川地区がその7割を占めており、その中心は名寄市となっています。「はくちょうもち」「風の子もち」の生産が多く、「伊勢の赤福」や「岡山のきびだんご」「おかき」等の原料としても使われています。また、道の駅指定管理者である株式会社もち米の里ふうれん特産館は、もち米に付加価値を付けることを目的とし、また冬期間の出稼ぎ脱却と雇用創出のため、もち米をもちに加工し、販売を手掛ける事業を平成元年に起こしました。7軒の稲作農家が集まり、ほぼ人力での餅製造を始めてから36年。今では人気のソフト大福や切り餅をはじめ、加工用丸もちとしては、モスバーガーでの冬季限定「おしるこ」やコンビニエンスストアでのおでん「もち巾着」にも使用されています。



写真-5 稲穂とライスセンター

#### 4. 道の駅施設の紹介

##### (1) 特産品販売コーナー

名寄産もち米「はくちょうもち」使用で、昔ながらのセイロで蒸しあげ、臼杵で搗きあげた餅製品を前面に出して差別化を図っています。なかでも14種類の「ソフト大福」は看板商品で、よもぎや塩豆といった定番は勿論、メロン・いちご等のフルーツ系、コーヒー・黒糖きなこや季節に合わせた種類等、お好みのものを選べる楽しさが人気となっています。また、もち米関連商品として「もち入りどら焼き」「風連おかき」「もちが主役のラーメン」等、豊富なラインナップが所狭しと並んでいます。毎週土曜日(冬季間除く)には、併設する餅製造工場で蒸かした「お赤飯」の販売も好評です。加えて、なよろ観光まちづくり協会加入の地元販売店からのパンや菓子、ジンギスカン、ラーメン、はちみつ、プリン、雑貨等も各種取り揃えておりますので観光みやげとして、また地元の方が名寄の手土産として多く利用されております。

\*\*ソフト大福…通常の大福製造工程にもう一工程(企業秘密)を加え、とても滑らかで柔らかい餅に仕上がっているのが特徴です。中の餡もそれぞれの餡が包まれていて種類も豊富。冷凍セットも各種ありご贈答用にお使いになれます。



写真-6 ソフト大福



写真-7 杵つき餅どら焼き



写真-8 風連おかき(左)、もちが主役のラーメン(右)

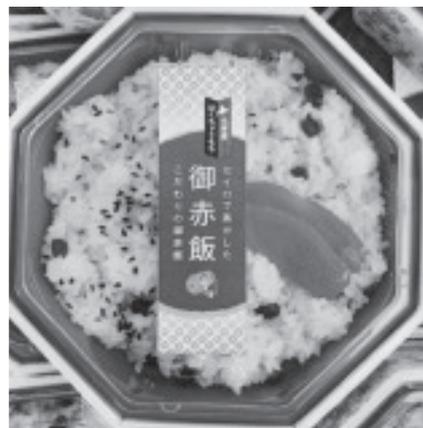


写真-9 もち工場で蒸かしたお赤飯

##### (2) テイクアウトコーナー

もち米入りみこロッケをはじめ、からあげ、焼きそばなどの軽食やソフトクリーム、コーヒー等ドライブの合間での休息にご利用いただいております。



写真-10 ソフトクリーム(左)、すりみコロッケ(右)

### (3) 情報提供

地元のコミュニティーFMのサテライトスタジオ「AIR てっし」から各種イベントやお店の情報を提供しています。また、モニターにてリアルタイムでの天候・道路状況も確認できます。



写真-11 FM Air てっし

### (4) お食事 風の寄り道

玄そばの脱穀から製粉、製麺まで行う「十割そば」各種が人気です。また、かき揚げの中に餅が入った「もちかき揚げ丼」もここでしか食べられない逸品です。勿論自慢の焼きもちも単品で注文できますので、ライス代わりにまた各料理のトッピングに喜ばれています。



写真-12 お食事 風の寄り道



写真-13 きざみ鴨せいろそば

### (5) 農産物直売所

農産物直売会が運営する安心、新鮮、おいしい野菜売り場です。6月初旬から11月初旬の営業期間となりますが、アスパラ・とうもろこし・メロン・すいか・かぼちゃ、じゃがいもや春秋のたけのこ・ふき・ウド・きのこ等の山菜も多く並びます。中でもゆでとうきびの人気は高く期間中7,500本ほど

販売しています。直売会の中での品質管理は厳しく、高品質の野菜物のみが販売されています。



写真-14 農産物直売所



写真-15 特産品のグリーンアスパラ

(6) 年間利用者数

2018年までは50万人を超えるお客様をお迎えしておりましたが、コロナ過で大きく減少しました。現在では40万人ほどまでに回復してはいるものの

近隣人口の減少、稚内方面への観光バスの減少、またインバウンド客も少なく、将来の見通しとしては厳しい状況です。

5. 集客のための創意工夫

この地域は観光地ではないため、この地を目的に来られる方は多くありませんが、国道40号線沿いの立地を生かしての集客方法を日々模索しています。イベントとしては紅白丸もちの無料配布やおこわの試食、胡蝶蘭の販売会、みかんの詰め放題と熊本物産展、オホーツクの海鮮販売等を開催し集客を図っています。最近ではキッチンカーでの販売も増えており、週末は屋外での賑わいが通行客を呼び込んでいます。また、コロナ過前には毎月一度の「ミチエキコンサート」を開催し、地元の団体・サークル・中高生等が練習の成果を発表する場となっています。現在は未だ休止中ですが再開を期待する声も多くなっていますので、来春の再スタートをめざして調整中です。そして現在、玄関フードには冷凍自動販売機2台を設置し、営業終了時間でもソフト大福や名寄の特産品が冷凍で購入できるようにしています。



写真-16 冷凍自販機

6. 今後の課題・展望

利用者の減少・客単価の低下・人員不足等、多くの問題を抱えていますが、そのなかでも道央道の延伸が大きな問題のひとつです。現在工事中の土別剱淵ICから名寄ICまでが繋がると利用車には当駅

を通過されてしまいます。稚内や利尻礼文への観光バス等の立ち寄りも減少すると予想され、道の駅にとっては死活問題になると思われますので、部分的にでも高速道路を降りてその土地のお土産を購入していただけるような仕掛けづくりの必要があると考えています。そしてその対応には単独ではなく広域性を要するため、現在国道40号線沿いの道の駅5駅(絵本の里けんぶち、羊のまち侍しべつ、びふか、なかがわ、もち米の里☆なよろ)で「上川北部道の駅連携(RSC)」を組織し、各種情報交換や勉強会、スタンプラリー、共同商品の開発、応援販売会等を行っており、今後はこのような連携が不可欠と思われます。そして、道北地方は11月から3月まで雪に覆われ来客者数も大幅に減少し、オフシーズンと言われますが、この時期は各種スポーツ競技会(クロスカントリー・ジャンプ・スノーボード・カーリング)や冬のイベント(雪まつり等)があります。これらを更にパワーアップさせて複合イベントとし、観覧は勿論、お客様参加型の催しで楽しんでもらい、その後は美味しいお食事と温泉、宿泊と道北の冬を堪能してもらえる『冬にお迎え』ができれば素晴らしいと考えます。これもまた近隣の市町村や道の駅との連携で「ハシゴ」ができる仕組みとし、より多くのお客様に参加していただけるものとなればと思います。こうした取り組みから集客を伸ばしていくことが道の駅利用者の増加へも繋がっていきますので、今後の課題としています。

## 7. おわりに

何かのご縁があってこの地を訪れた方々には、生涯記憶に残るような「まち」「道の駅」となりますようスタッフ一同努力をして参りますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

---

### 猪 刈 嘉 之(いがり よしゆき)

株式会社もち米の里ふうれん特産館  
取締役 道の駅施設長

